

# 製品リサイクル対策

Green Products .....

## 使用済み製品も大切な資源。90%以上のリサイクルを達成しています。

製造事業者としての社会的責任の観点から、法人からの使用済み製品を対象に、富士通りサイクルシステムにより回収および再資源化しています。また、廃プラスチックの再生技術開発などに取り組んでいます。

### 使用済み製品のリサイクル実績

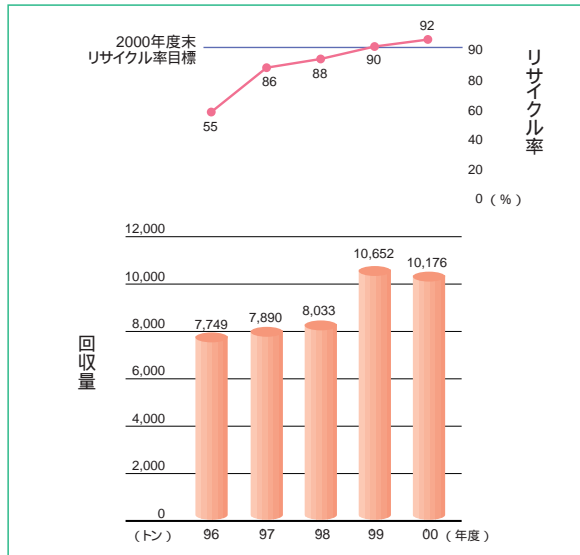
2000年度末までにリサイクル率92%となり、第2期環境行動計画の目標である90%を達成しました。1995年当初は、社内から出る使用済み製品のリサイクルを川崎工場にて実施していました。1996年度～1997年度に首都圏リサイクルセンターを初めとして、全国5ヶ所にリサイクルセンターを開設。1998年12月には全国をカバーする物流ネットワークと連携し、富士通りサイクルシステムとして、法人の使用済み製品リサイクルに取り組んでいます。

#### FMV解体手順マニュアル



### 回収量とリサイクル率\*の推移

#### 回収量と使用済み製品のリサイクル率



\* リサイクル率 =  $\frac{\text{リサイクルした部品・材料の重量}}{\text{使用済み製品の処理量}}$



#### 主な実施内容

- 5リサイクルセンターの開設(1997年度まで)
- 物流ネットワーク連携による富士通りサイクルシステム構築(1998年度)
- 廃プラスチックの再生技術開発(ポインティングホルダーに採用)(1998年度)
- 解体手順の標準化確立(69機種マニュアル作成)(1999年度)
- リサイクル処理状況管理システム構築(1999年度)
- 回収量10,000トン達成(1999年度)
- リサイクル率90%達成(1999年度)
- 部品リユースシステム構築(2000年度)
- リサイクル業務支援ソフトの開発(22種伝票作成)(2000年度)
- ハードディスクのデータ消去方式開発(2000年度)

#### 富士通りサイクルセンター所在地



リサイクルの先行企業として、さらなる努力を進めます。

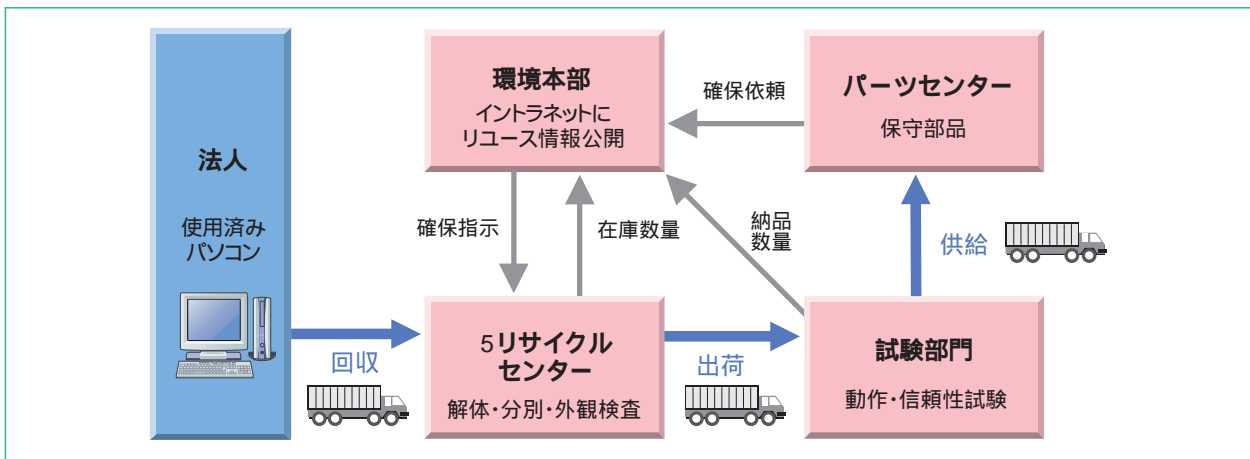
当センターは、1997年3月に開設して以来、情報・通信機器のリサイクル事業を推進しています。2000年度の処理量は、約2,400トンを達成しました。2001年4月からの資源有効利用促進法(改正リサイクル法)施行にともない、先行している富士通グループとしてのテクノロジーと創造力をより高め、地球環境保全にさらに努力していきます。

富士通西日本リサイクルセンター長 漆原 敏明



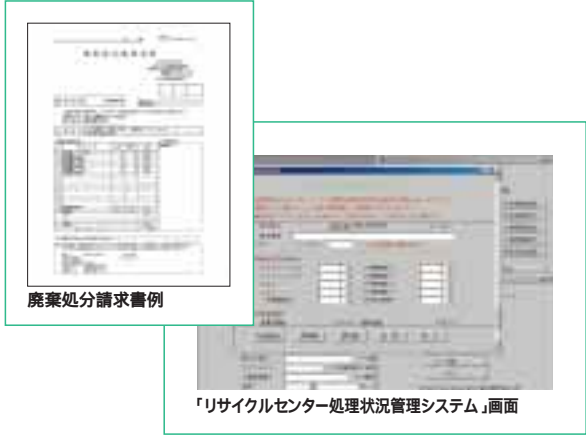
### 部品リユースシステムの仕組み

イントラネットを利用したシステム化により、保守・修理向けパソコン部品のリユースを推進しています。



### リサイクル業務支援ソフトの開発

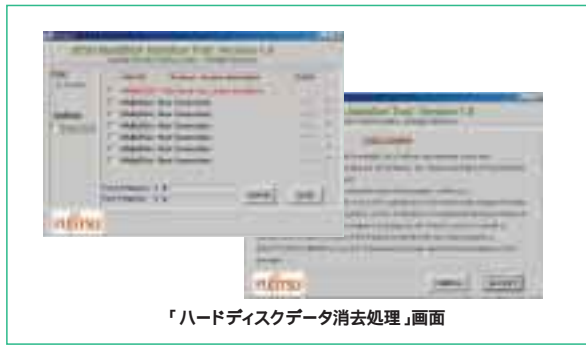
回収量、種類、収支集計の実績管理や伝票作成など、システム機能強化をはかり、業務効率化を実現しました。



### ハードディスクデータ消去ソフトの開発

顧客情報のセキュリティ強化を目的にソフトの開発を行い、ハードディスクデータ情報の消去を行っています。

- 対象： SCSIタイプ、ATAタイプ
- 接続数：最大7個ハードディスクを連続消去
- 方式： ダミーコードによる全領域上書き



2001年4月に施行された資源有効利用促進法(改正リサイクル法)に基づき、法人からの使用済みパソコンは、既存の富士通リサイクルシステムにて回収・再資源化を行います。個人のパソコンにつきましては、2002年度の法施行にむけて準備を進めています。